

コロナ渦に養成校を卒業したリハビリテーション専門職の不安への対応と今後の課題

法人名 医療法人社団 協友会
 病院名 横浜鶴見リハビリテーション病院
 職種・所属 作業療法士・リハビリテーション技術科
 発表者氏名 佐伯まどか
 協力者氏名 清水宗平 福田美穂

【はじめに】

2020 年は、全国的に新型コロナウイルスの感染防止対策がとられ、教育現場にも影響を及ぼしていた。その影響の一つとして、理学療法士（以下、PT）、作業療法士（以下、OT）、言語聴覚士（以下、ST）養成校における医療・介護機関等での総合臨床実習（以下、実習）が行えない状況が散見し、当院入職の新入職員からも実習を経験していない状態で就職をすることへの不安が聞かれていた。実習未実施における不安の具体化と、臨床現場における卒後教育の対応と不安の変化を明らかにすることで、新型コロナウイルスに影響を受けた教育現場と連続性をもった PT・OT・ST の育成の一助となると考えた。

【方法】

2021 年 3 月に PT・OT・ST 養成校を卒業し、同年 4 月に当院に入職した PT12 名、OT6 名、ST3 名のうち、同意の得られた 20 名を対象とした。調査期間は 2021 年 4 月～5 月とし、その期間に当院で選定をした情意領域・認知領域・精神運動領域の研修を机上・グループワーク・実技等で実施すると同時に、実患者を通して見学・協働参加・実施のプロセスを意識した担当指導者による指導を行った。研修・指導の開始前後で、不安項目に対するアンケート調査を行った。

【結果】

実習は 19 名が期間短縮又は中止となっており、予定通り行えたのは 1 名だった。入職前より 16 名 (80%) が強い不安を示しており、「仕事のイメージがわからない」「評価・統合解釈・アプローチの一連の流れがわからない」や、評価・統合解釈・アプローチの各項目に不安を感じていた。研修・指導後も評価・統合解釈・アプローチに対する不安は継続している一方、医療事故に対する不安項目が新たに追加となり、他の項目への不安は減少をしていた。

【考察】

専門職としての知識・技術に対する不安や、就職先のイメージが持てない状況での入職が不安を作る要因であると考えられる。専門職としての知識・技術への支援は継続する必要があるものの、入職直後の研修・指導は入職前の不安を軽減し、医療事故等への新たな視点育成の一助となると推察する。

【引用文献】

芳野 純・臼田 滋：医療施設における理学療法士の継続教育の現状．理学療法科学：25（1）：55-60．2010
 日本理学療法士協会：臨床実習教育の手引き（第 6 版）
 新型コロナウイルス—各現場から，with コロナ時代の理学療法を展望する．PT ジャーナル 2020； 54； 796-818